



人を大切にする武蔵野の会 vol.1 桜井夏来 Report

PROFILE 1974年 吉祥寺南町生まれ / 私立第三小学校・中学校卒業 / 1993年 桐朋高校卒業
1997年 私立沖繩大学卒業 / ソフトウェア会社勤務 / 2001年 衆議院議員川田悦子秘書 /
2007年 武蔵野市市民協働サロンスタッフ / 2021年 市議会議員選挙に当選

ACT FOR OUR FUTURE
10 2021
月号

2021年10月12日発行

武蔵野市長選挙・市議会議員補欠選挙を終えて



10月3日、2期目の当選を決めた松下玲子市長と
(撮影のため一時的にマスクを外しています)

武蔵野の未来を決める選挙

9月26日告示、10月3日投開票のスケジュールで行われた「武蔵野市長選挙」並びに「市議会議員補欠選挙」。

私、桜井夏来は、武蔵野の未来を決めるこの2つの選挙に際して、2期目を目指す松下玲子市長を応援するとともに、自らも市議補選に立候補して「命とくらしを守る市政」の推進を訴えてまいりました。

無投票に終わった市議補選

市議補欠選挙は、7月29日に辞職した堀内まさし議員（自由民主・市民クラブ）の議席を補充するためとして予定されていましたが、その後9月22日に深田貴美子議員（改革武蔵野・都民ファースト）も市長選挙に立候補するために辞職し、対象が2議席へと拡大しました。

これに対して、8月の下旬に行われた立候補予定者説明会には、7陣営が

出席するなど、混戦となる気配が見られました。ところが、いざ告示日を迎えてみると、実際に立候補の届け出を行ったのは私を含めて2名のみで、即日、無投票での当選が確定する結果となりました。武蔵野の市議会議員選挙では初めてのケースでした。（市長選挙では1967年と1975年に無投票の例があります）

こうして私自身は当選を果たしたわけですが、無投票での決着となったのは、正直に言って残念なことだと思っています。選挙は候補者同士が議論を闘わせ、有権者がその中から最良と感じる選択肢を選ぶことに意義があるわけで、それが実現しなかったことは候補者・有権者双方にとって重大な機会の損失だと言えます。コロナ禍で私たちの社会の進む方向性が問われる大切な時だけに、なおさらでした。



ポスター掲示板に貼りだされた「無投票のお知らせ」
選挙公報の配布も急遽中止されることに

高い関心を集めた市長選挙

一方、市長選挙は現職の松下玲子

市長に加えて医師の鹿野あきら氏、市議を辞職された深田貴美子氏の3名による激しい戦いとなりました。

私は、自らの選挙が早く終わったことから、以降は松下市長の応援に取り組みましたが、街中や電話での反応から有権者の関心の高さを感じました。半面、争点がコロナ対策にのみ集中して、それ以外の課題が充分に取り上げられなかったことや、選挙戦終盤に政策論争ではなく誹謗中傷やデマに近い攻撃がなされ、政治そのものへのうんざり感や不信感を高めてしまったことなど、残念な点もありました。

とはいえ、結果的には松下玲子市長が2位の候補にダブルスコアの差をつけて勝利し、武蔵野の有権者が冷静な判断で、「命とくらしを守る」現市政の方向性を支持した結果となりました。投票率についても、前回選挙を3%近く上回り、44.26%という値を記録しました。

武蔵野市長選挙 選挙結果

🌸 松下玲子	34,096
鹿野あきら	16,430
深田貴美子	7,025

市議補欠選挙 選挙結果

🌸 小林まさよし	-
🌸 桜井夏来	-

(敬称略)



議会における所属会派について

議員として活動スタート

選挙の翌日となる10月4日には当選証書の授与を受け、議員としての活動をスタートしました。また、10月6日には臨時の議会運営委員会が開かれ、会派や委員会など今後の議会活動における所属も決まりました。



右から土屋美恵子議長、共に市議補選に当選した小林まさよし議員、桜井、川名ゆうじ副議長

会派への所属について

「会派」とは、議会内で活動を共にしようとする議員のグループで、2人以上から結成をすることができます。一般的には、同じ政党に所属する議員

で構成するのが普通ですが、政党に所属していない議員同士で会派を組んだり、複数の政党で一つの会派を構成したりすることもあります。

私の場合は、今回の市議補選で党派横断的に様々な方の応援をいただいたこともあって、特定のグループに属することは適切でないと考え、当面の間「会派に属さない議員」として活動していくことにしました。

会派に属さないデメリット

ただ、議会での役割は、基本的に会派の構成人数に比例して割り振られるため、「会派に属さない議員」には希望通りの委員会に入れられないなどの不利益が生じます。例えば外環・予算・決算などの特別委員会や、議会運営委員会、議会広報委員会などは、「会派に属さない議員」は委員になれません。

これは、議員個人にとっての不利益というだけでなく、その議員に投票した有権者の声が十分に反映されないことにもつながります。

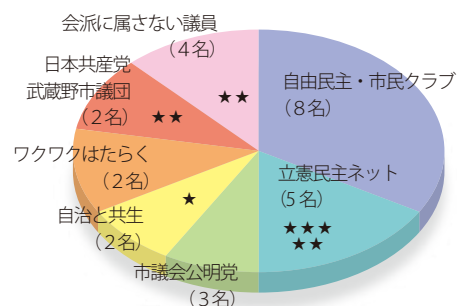
3名の議員で申し入れ

今回の選挙の結果、会派の構成比率が変わり、「会派に属さない議員」は4名（選挙前は2名）に増えました。数だけで言えば、第1会派の自由民主・市民クラブ（8名）、第2会派の立憲民主ネット（5名）に次ぐ数です。

こうした状況も踏まえて、10月6日の議会運営委員会には、「会派に属さない議員」である山本ひとみ議員、下田ひろき議員、桜井の3名の連名で、「今任期で予定されている予算特別委員会・決算特別委員会に、会派に属さない議員からも委員を選出し、それぞれの特別委員会に参加できるよう配慮を求める」旨の要望書を提出しました。

会派の構成

（★は先の市長選で松下市長を支持した議員）



「北口駐輪場問題」の真実は？

今回の市長選挙では、「武蔵野市政を立て直す会」という団体の名前で、「吉祥寺駅北口駐輪場売却反対です」というポスターが貼り出されました。また、同団体によるチラシのポスティングも行われましたが、その内容は市が民間事業者との間で進めている土地交換取引に、あたかも疑惑があるかのようにほめかすものでした。

この土地交換は、駅から徒歩1分の距離にある駐輪場建設地を、徒歩3分の距離の空き地と交換するというもので、交換後の用地が老朽化した消防団詰所の建て替えのために不可欠である

ことから、市が取引に応じたものです。

一部には「11億円の土地を3億円の土地と交換」などという表現も見られましたが、11億円は市が20年以上前に駐輪場用地を取得した時の購入価格であり、現在ほとんども路線価で3億円程度の価値と算定されています。もし問題点を指摘するとするならば、3億円まで値下がりしてしまう土地を11億円の高値で買った20年前の市政の判断こそ問われるべきでしょう。

以上のような状況を踏まえると、私はこの土地取引に疑惑の要素はなく、「北口駐輪場問題」自体が、選挙に利

用するために意図的に流されたデマであるという印象を持ちました。

この問題については、11月に予定される一般質問を通じて、より正確な情報を明らかにし、市民のみなさまにお伝えしていくつもりです。



「武蔵野市政を立て直す会」によって貼り出された北口駐輪場売却反対のポスター